

教育理念・目標	日本国憲法が定める基本的人権を尊重し、平和で民主的な社会の形成に資する主権者を育てる。 法政大学の校風として育まれた「自由と進歩」を体現する主体的で創造的な人間を育てる。 豊かな知性と教養、健康な心と身体、思考力と判断力を有する人間を育てる。
重点目標	①命と人権を重視し、保護者とも連携して生徒と真摯に向き合いながら生徒の成長をサポートする。 ②生徒の状況を全体で組織的に把握し、生徒を中心に据えた活動が展開できるように努める。 ③個々人が全体状況を見据え、各担当部分をコントロールし、持続可能な学校運営をめざす。 ④チームワークによる教育力向上をめざし、教員会議に結集し共通認識をつくる。 ⑤教育的な指導論の研究を目的に研修を行い、研修への参加を促す。対話のできる自省的な教師集団への成長を目指す。

共通課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2020年10月
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	建学の精神 (建学の精神や理念の理解と意識化)	2017 年自校教育の教材作成のプロジェクトを立ち上げた編集委員会を中心に附属校生むけ教材『学びのつながり』を作成した。本学が掲げる「自由を生き抜く実践知」は附属校生にもあてはまり「なぜなんだろう」と探求心を常に持ち、自由な発想に基づいて学び続ける姿勢を身に着けさせるよう、オリエンテーションやウエルカムフェスタやHRでの活用法を研究する。				
2	組織運営	<ol style="list-style-type: none"> チームワークと合意形成 <ul style="list-style-type: none"> 上に掲げた教育目標や教育刷新会議により出された「建議書」の内容に立ち返って、本校の教育活動を再点検し、生徒・保護者の信頼を得た上で、生徒の成長をはかることができるように努めること。また、近年取り組んできた「安全・安心」「信頼と共同」「対話と討論」という観点に加え、「チームワークと学び合い」を掲げ、社会の動向、生徒・保護者の様子をよく観察して教育活動にあたることを方針に掲げた。 チームワークを発揮することは容易ではない。ラグビーワールドカップ 2019 で日本代表が「ワンチーム」をスローガンに躍進したが、まさに多様性を尊重したうえでのチームワークの向上が本校における教育活動の充実につながることは明らかである。また、学び合いはあるものの、全体の組織的な学び合いはまだ展開されていない。組織的な学び合いの仕組み作りを目指したい。 教員会議の位置づけを確認・研究し、限られた時間の中でさらに効率よく建設的な職場内の合意をつくる場の実現を目指した。あらかじめ設定した終了予定時刻を意識した上で、充実した合意形成の場となるように、議題設定から運営まで関係各部署と議長団と連携して進めることができた。提案文書の 1 週間前提出や事前配布に関しては、担当者と引き続き追求すべき課題である。 持続可能な運営 <ul style="list-style-type: none"> 2018 年度末企画運営委員会から専任教員対象に「法政中高の課題リストの作成について」というアンケート調査を実施しその回答結果を踏まえ、できることから改善に取り組んだ。生徒・教職員の学校生活や職場環境の充実と、とりわけ教員が精神的なゆとりを持ちながら生徒と接し、教科教育や行事指導にあたる時間を確保し、教育活動をより豊かに展開できる環境づくりを実現しようと努力してきた。「働き方改革」と「本校が目指す教育」の両立を持続可能な形で実現することを目指し、試行錯誤する 1 年となった。 教育的な観点と働き方との関連で下校時間と SHR、行事検討を行った。下校時間は中高ともにクラブ延長部分の 30 分前倒しが実現した。SHR については年度当初と 12 月に提案を行ったが合意に至ることはできなかった。行事は総括をもとに、中 2 オーストラリア語学研修、中 3 修学旅行、高 1 オリエンテーションキャンプ、高 1 スキー教室について検討し提案した。高 1 オリエンテーションキャンプは宿泊をしない形で校内実施、高 1 スキー教室は 2 泊 3 日での実施となった。 「働き方改革」と「本校が目指す教育」の両立に関してはフレックスタイム導入後、課題はありつつも業務削減と効率よく議論・決定をみることを一歩ずつ進めることができていると考える(会議の終了時刻設定、下校時間の繰り上げなど)。 組織のあり方、特に人事委員会など人事に関わる本校の組織的なあり方を検討した。検討委員会を立ち上げ答申を受け、現在も検討中である。 コロナ対応 <ul style="list-style-type: none"> 2 月以降猛威をふるった新型コロナウイルス(以下、新型コロナ)への対策に迫われ、対応を余儀なくされた。政府や文科省の施策に振り回される面もあったが、大学法人、三付属校、12 支部、私中高協などとも連携・情報共有し、感染拡大防止の観点から、通常通りの業務を行えないながらも、対策本部を中心に、フェアキャスト、メール、分掌での Web 会議などを通じ、情報の共有と可能な限りの意見聴取を通し、中止や延期、規模縮小などの判断を持ちながら生徒、保護者、教職員にとっても安心安全な活動が保障されるように取り組んできた。 				

		<p>・民間においてもテレワークやweb会議の推奨がなされ、厚労省HP（安全委員会等の開催）でも、「安全委員会等を開催するに際してはテレビ電話による会議方式にすることや、開催を延期することなど、5月末までの間、弾力的な運用を図ること」という観点や、大学法人も重要な意志決定でやむなくというものは除き、会議は極力しない、または短縮する基本方針を持っていることなども参考に、大人数が一堂に会する会議を持たなかった。</p>	
3	<p>教育活動 (教科、生活、進路、行事、自主活動等)</p>	<p>1. 教務 高2高3必修選択授業、夏季冬季特別講座、高3三学期講座、学習予定表の作成、授業参観については滞りなく実施した。 高校理科カリキュラムについて、2020年度入学生よりカリキュラム改訂を行う。新学習指導要領改訂に伴う本校の対応については、情報収集と教科主任間で必要な改訂を行うという共通認識を持ち、新学習指導要領改訂に合わせて調査書の書式改訂を行った。 道徳導入、芸術の時間数増により、中学リメディアルについては7時間目に英数で実施した。</p> <p>2. 進路 高1：性格・進路診断テスト及び法大見学、高2：OBOG進路講演会、高3：法大推薦・併願・他大受験、全学年：進路希望調査において滞りなく実施した。 進級基準や欠試について本校規定の検証を行っている。様々なケースを鑑みながら、規定の運用や変更など検討を続けたい。</p> <p>3. 図書 図書室の運営、行事の調べ学習における図書室利用の促進、教育研究、研究紀要の刊行については滞りなく実施した。 今年度は特に図書室内のICT化について、図書部・事務・情報センターで検討し、リプレイスでは計8台のノートPCを導入し、インターネット検索や資料作成などの授業や行事の事前学習にも対応できる環境づくりに努めた。</p> <p>4. 国際交流 カナダ語学研修の準備と実施、留学生の受け入れ、派遣留学生の推薦書などの作成やガイダンスについては滞りなく行った。ドイツからの受け入れに関しては、天候のため先方からキャンセルとなり、ドイツへの派遣に関しては新型コロナウイルスの関係で中止となった。 中3及び高校の希望者による海外研修については継続して検討を行っている。</p> <p>5. 学事 教員受持時間割表作成、定期試験時間割および試験監督表の作成、1月行事に伴う特別時間割、基礎的思考力確認テスト、学力試験について滞りなく実施した。</p> <p>6. 行事検討 ①「いのちの日」の制定 7月22日を「いのちの日」として行事予定表に明記し、2016年の学校事故を記憶にとどめる日とし、希望者による追悼の集いを今後も継続することを確認した。 ②中2オーストラリア語学研修の変更 検討委員会、関係部署で検討され、中2オーストラリア語学研修は希望者による、中3オーストラリア海外研修に変更となった。 ③その他宿泊行事について 中学高校と見通しながら、宿泊行事の検討を継続的にやっていく。</p> <p>7. 生活指導 基本的人権の尊重、命の安全を第一に据えた生活指導を心がけた。法令を遵守し、公共のマナー・モラルを身につけるべく、自主的・自律的に行動できる生徒の育成を目指した。現行の校則や生活指導のあり方について検討し、多様な生徒の現状に見合ったものとなるよう議論を重ねた。 ①生徒状況やクラス状況を、より正確に迅速に把握するよう努めた。指導の際には、各学年会やクラブ顧問で連携し、安全・安心な教育活動を進めることを意識して取り組むことができた。その結果、教員が結束して事に当たる姿勢を生徒に示すことができ、生徒の問題行動をある程度未然に防止することができた。 ②登校指導を、今年度もシルバー人材指導員の協力を得て行った。教員の立ち番体制は各学期始めと試験期間に限定し、教員の負担を軽減することができた。生徒には始・終業式等で自覚ある行動を呼びかけ、安全かつマナーをわきまえた登下校を目指したが、苦情・アドバイスの数は年間を通して50件を超えた。特に、鈴掛祭と定期試験の前後、電車遅延時、クラブ活動終了後の下校時に苦情が寄せられることが多い。対応策として「生活指導部だより」をリニューアルして教員に配付した。近隣の住民や外部の方々からの指摘・助言の内容を教員間で共有し、各クラスやクラブでの指導・注意喚起に役立てることができ、一定の効果があつた。また、生徒による現状把握のため、高校生活委員会による登校指導、中学生生活委員会によるエントランスでの挨拶運動を行った。マナーを改善するために生徒自身ができることを考える機会となった。 ③生徒のリスク回避のため、中高共に新入生ガイダンスにおいてインターネット利用上の注意喚起を行った。また、学年の実情に応じてインターネット利用アドバイザ</p>	

	<p>一や、KDDI スタッフによる講演を行った。それでもなお、インターネット・SNS を介しての問題行動がしばしば見られた。専門家による講演等を通して生徒間に危機意識を高めていく一方で、各教員の生徒理解の質を向上させ、日々の業務の中で個々の生徒に十分な目配りを行い、トラブルの未然防止に努めることが大切である。</p> <p>④各学期に1度「身だしなみチェック」を行い、生徒の正しい制服着用を促した。生徒の人権を尊重し、「地毛届」を廃止した。また、生徒の健康面に配慮し、昨今の地球温暖化対応のため「衣替え期間」を条件付きで撤廃し、生徒が各自の判断でその日の天候にあった制服を選んで着用できるようにした。</p> <p>⑤危機管理の面から、使用ルールに違反したケータイ・スマホの返却方法を見直し、日をまたいで預からないこと、返却目的での保護者への来校依頼は極力避けることで教員間の合意を得た。</p> <p>⑥自転車通学者には、万一の事故に備えて保険への加入を呼びかけてきた。東京都では2020年4月から自転車損害賠償保険への加入が義務づけられる。他の保険に付帯されていることもあり、自転車通学許可の際の加入確認の必要性、確認をするのであればその方法の検討が必要である。</p> <p>8. 生徒会 生徒会分野においては、諸活動を通して生徒会組織の一員としての自覚と責任感を持ち、学校生活の充実・向上のために力を尽くそうとする態度や能力を養うことを目指した。また、生徒が自発的・自治的に活動できる場や機会を確保し、自分の役割や責任を進んで遂行することで集団活動や行事運営を実践的に学ぶことができるような指導を心がけた。</p> <p>①生徒が自発的・自治的に各行事を運営できるよう指導し、各実行委員会が積極的に運営に関わることができた。</p> <p>②陸上競技大会・スポーツ大会では、熱中症対策として待機場所に日よけのテントを増設し、霧吹きを活用することにより、安全に行事を行うことができた。しかし、テントの数はまだ十分とはいえず、来年度以降さらなる増設が望まれる。競技種目に関しては安全を第一に選定した。しかし、不慣れな新種目の練習に十分な時間がとれない状況で当日を迎えることとなった。来年度以降の課題である。</p> <p>③スポーツ大会および鈴掛祭における携帯電話の扱い・身なりなどのルールを作成し実施した。特に鈴掛祭ではルールを逸脱した身なりが多く、トイレや更衣室を汚したままの状態が見られた。来年度以降の対応検討が必要である。</p> <p>④中学7限リメディアル・下校時間の繰り上げにより、特に中学において委員会活動の時間を十分に確保できなかった。限られた時間内で実施できる活動形態や運営方法を検討する必要がある。</p> <p>9. クラブ指導 教員の働き方改革を念頭に置きながらも、円滑なクラブ活動が可能となるような組織づくりを検討した。大学付属校である本校におけるクラブ活動の意義、保護者・生徒にとって本校の魅力となるクラブ活動について討議した。本校でのクラブ指導のあり方や、合宿に関しても、生徒や顧問教諭に過度の負担がかからないように実施場所・年間合宿日数・費用・引率顧問数等、これまでに振り返って考察することが必要である。生徒・顧問の双方にとって、持続可能なものとなることを念頭に置き、今後どのように運営していくべきかを、次年度以降、引き続き検討していきたい。</p> <p>①顧問会議・クラブコーチ懇談会を開催した。特に後者においては、参加者間で生徒状況等の共有化ができて有意義だった。雨天時の練習場所の振り分けは、継続検討としたい。指導者全体で共通認識をもってクラブ指導にあたることは重要である。</p> <p>②夏休み前、各部代表生徒に対して熱中症対策講座を行い、予防や熱中症になった場合の対応法等について学ぶ機会を持った。継続して実施したい。</p> <p>③各クラブの年間諸経費に関する調査を行い、3月の新入生ガイダンス資料に加えること で新入生・保護者に周知することができた。今後も継続したい。</p> <p>④課外活動指導員を5つの部に7名配置した。限られた予算内でスタートさせ、全ての部に配置できないという課題もあるが、今後広く行き渡らせるよう進めたい。</p> <p>10. 次年度重点課題 * 登下校時の生徒と近隣住民の調和に向けた生徒会活動の取り組みの模索。 * SNS 利用に関する生徒への継続的な注意喚起。 * 限られた時間で各生徒会行事を安全・安心で実施する活動形態や運営方法の検討。 * 三者協議会のあり方の検討と、実現可能な形態の模索。</p>	
4	<p>安全・保健管理 (保健、安全、防災、施設等)</p> <p>1. 保健</p> <p>①感染症対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健日より等で注意の呼びかけを行った。 ・インフルエンザ流行前11月末クレベリン(無料提供)を教室や教員室などに設置した。その効果か不明だが、3学期の学級閉鎖数は1クラスで、例年より若干少なかった。 ・文科省通知をふまえ、新型コロナ防止のため、フェアキャストでお知らせをした。 <p>②定期健康診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心電図や尿検査等、精密検査が必要な生徒には受診勧告を行った。 ・治療が必要な生徒や思春期やせ症が疑われる生徒には受診勧告を行った。 ・6月に希望者を対象とした色覚検査を実施した。 	

		<p>③カウンセリング活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カウンセラーからのお便りを隔月に発行し、開室日やカウンセリングの周知をした。 ・土曜日を希望するケースがあるため、毎月1回は土曜日に開室した。 ・メンタルの不調による休養が多い生徒に対し、関係諸機関と連携して対応を行った。 <p>④応急処置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院搬送件数は6件で平年より少なかった。内訳は、内科1件、頭部打撲2件、脱臼骨折1件、骨折1件、腹痛1件であった。頭部打撲1件において、「#7119」や学校医らと相談し、緊急度が高いと判断し救急車を要請した。 ・様々な研修会に参加して自己研鑽に努め、CPRや応急処置について定期的に実習や確認を行った。 ・AED設置箇所が3箇所増えたため、環境防災と協力してAEDマップを作成した。 ・4月に教員対象にエピペン講習会、エピペン携帯者の情報共有を行った。 <p>⑤性教育等の健康教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年会やカウンセラーと協力し、中学道徳で性教育等の健康教育(人との関わり、性の多様性、リフレーミング、アンガーマネジメント)を行った。 ・高3(3学期講座・希望者)で性教育を実施した。 ・6月22日より保護者、教員に生徒の保健室利用状況を把握してもらうため、保健室を利用した全生徒についてフェアキャストで報告を始めた。これに伴い、「保健室連絡票」を廃止した。 <p>⑥課題</p> <p>宿泊行事中のインフルエンザ蔓延がその後の校内感染者数増加に繋がるため、体調不良者や発熱がある場合は行事への参加を自粛してもらうことを徹底したい。</p> <p>2. 安全・環境・防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も夏の追悼の集いを関係諸組織と連携をはかりながら、取り組みを進めた。今後も「いのちの日」として、ご家族の意思を尊重し引き続き取り組んでいきたい。 ・自分の生命を自分で守るための防災教育の研究に関しては、防災備品の整備、避難経路、AED・消火器設置場所の図示など、改善を図れた。また、学年会(中1・高1)と連携し救命講習を実施し、教員の普通救命講習も3年ぶりに実施することができた。防災訓練について検討し、3学期は荒天を想定した体育館での訓練を実施できた。 <p>3. コンプライアンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内外の教育および社会問題を踏まえた研修を計画的に行い、教育的でハラスメントのない学校・職場を目指した。4・7・9月の堀切弁護士の研修では、裁判などで法的に問題になる事例、いじめと向き合う対策等について学んだ。7月の中村弁護士の研修では、個人情報扱いや会計処理、ハラスメント等について学んだ。12月の南部先生の研修ではいのちを大切に安全な学校づくりに向けて、学ぶことができた。 ・夏の教研は入試とSHR、冬の教研は行事(宿泊行事・鈴掛祭)をテーマに取り組んだ。 ・フェアキャストは運用も定着した。天候の対応について、より精度の高い対応ができるよう取り組みを進めたい。遅延については、井の頭線の運行休止の際の対応を加える形で要覧の改定を行った。 <p>4. 施設・設備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度工事予算で、各教室のwi-fi導入が決まった。 ・生活指導部と連携し、人感センサーライトの設置を決めた。引き続き防犯カメラ設置に向けて検討を進めたい。 ・卒業記念品として、オレンジホールのプロジェクター一式を寄贈して頂いた。祝う会中止のため、返金処理を含め大学事務局にも協力をお願いした。 ・Officeを使った施設利用申請への一本化が整備された。 ・式典の要項について、内容の精選をはかり安定的に運用されるようになってきている。表彰などは顧問と密に連携をとって、更にスムーズな進行を心がけたい。 	
5	<p>連携 (保護者、卒業生、地域等)</p>	<p>1. PTA</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局を1名増員し、PTAの意見をいかし、担当者の負担軽減とスムーズな運営につなげることができた。次年度以降の会費変更についても着手できた。 <p>2. 卒業生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームカミングデーの隔年開催について、全ての代が参加でき、活気ある会にするため、同窓会とも連携し、より良いあり方を探りたい。 <p>3. 地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高2必修選択授業の書道作品をコミュニティまつりに出点した。牟礼コミュセンに20点出点し「法政高校生の作品は力強い。高校生から難しいことに取り組んでよい」という感想を頂いた。井の頭コミュセンに3点出点し、小学生の保護者様から「続けていればこんなに上手になるんだ」との声が聞かれた。 <p>4. 重点課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高としてのPTAのあり方、持続可能な活動の検討。 ・災害発生時の地域との協力、緊急時避難場所としての私学生徒の受け入れ検討。 	
6	<p>大学との連携</p>	<p>1. 高大連携の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2014年にSGU(スーパーグローバル大学)の認定を受けた法政大学の高大連携の行事 	

		<p>には、法政大学付属校受験生とその保護者向けの「法政大学付属校合同説明会」、高校1年生全員が対象の「ウェルカムフェスタ」(7月)、高校生希望者対象の「ワンデイスサイエンスカレッジ in 小金井」、「イングリッシュ・キャンプ」、「英語プレゼンテーション大会」がある。本校からも応募形式のプログラムのそれぞれに複数の生徒が参加し意識が高まってきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワンデイスサイエンスカレッジ in 小金井は、8月中に三附属の希望者及び一般参加者で実施された。本校からは26名申し込み、22名が参加した。参加の内訳は高1が16名、高2は5名、高3は1名であった。 イングリッシュ・キャンプは、8月中に三附属の希望者が集まり大学主体で実施した。本校からは29名が応募し13名が参加。参加の内訳は高1が5名(男子4名、女子1名)、高2は3名(男子2名、女子1名)、高3は5名(男子2名、女子3名)。 「高校3年生3学期プログラム」、「学部別ガイダンス」も例年通り行われ成果を上げたが、前者においては卒業論文の発表及び卒業レポートの発表が、後者に関しては複数の学部のガイダンスが、それぞれ新型コロナの影響により中止となった。 聴講制度は高3生徒にアナウンスをして、希望者がいれば大学と遂行した。 高1対象法大見学は、12月中旬に市ヶ谷及び多摩・小金井にて2日間行った。 英語プレゼンテーション大会は、本校から3人(希望は4人あり)が参加した。 <p>2. 法大推薦について</p> <ul style="list-style-type: none"> 法大推薦においては、毎年5月頃に総長文書が出される。これを毎年十分確認し、生徒保護者に確実に周知して進めていくことが重要である。以下、今年度の事例。 今年度英語4技能への移行の関連でT.Bのスコアが140以上から72以上に、GTECのスコアが3技能で490以上から590以上に、GTEC(CBTタイプ)のスコアが705以上から820以上にそれぞれ変更された。受験後に判明したものは大学とやりとりをして対応した。 <p>3. 教育実習生の受け入れと大学との連携</p> <p>担当教員及び実習生のマニュアルを教務部で作成した。これに則り実習生や本校生徒にとっても有意義なものとした。</p> <p>4. キャリア形成ほか</p> <ul style="list-style-type: none"> 法政大学が策定した長期ビジョン「HOSEI2030」には、三附属校教員のキャリア形成の観点から研修の一環としての人事異動についても触れられている。今年度は二中高と国際高校との間で研修の位置づけを持って教員の異動が行われた。 今年度は時間管理を行い、長時間労働を是正し心身の健康を維持する労働者の視点と教育の専門家としての視点とのバランス、「働き方改革」と本校が目指す教育との両立、そのための討論と団結が各付属校に求められた1年であった。継続課題としたい。 	
--	--	--	--

付属校独自課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2020年 月 日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	三者協議会	今年度も三者協議会を開催することはできなかった。取り上げるべき話題はあるものの、日程調整が困難であった。保護者の期待、要望も強いので、検討していきたい。				
2	教育理念	本校を会場に予定された三附属校教研が、新型コロナ対応のため中止とした。講演内容は「法政大学憲章である『自由を生き抜く実践知』を学ぶ付属校向けの教材について」を予定した。『学びのつながり』について、今後も学び合い活用したい。				
3	入試広報	<p>① web 出願は3年目で、昨年度と比較すると修正する部分もほとんどなく、軌道に乗ってきたと評価できる。その結果、問題なく出願、受験、合格手続きなどの一連の手続きを終えることができた。</p> <p>②オープンキャンパスや中高入試に関する学内説明会、外部説明会などを滞りなく遂行した。本校の認知度の向上、受験生のさらなる獲得を目指し、予算に留意して内容を精査しながら、広告(駅、外部WEBサイト、雑誌記事など)掲出に力を入れた。</p>				
4	地域	<p>① 地域との関わりにおいては、生徒にとってより広い学習の場、よき市民を育成する機会の一つとして位置づけ指導した。しかし、今年度も登下校に関しては多くの指摘や助言が届いており、問題は依然として解決に近づいていない状況にある。特に、電車遅延による始業間際の短時間に登校生徒が集中する際や、鈴掛祭・定期試験の前後、クラブ活動終了後の下校時にご意見が寄せられることが多い。</p> <p>② 生徒の通学により自分たちの生活に支障が生じ、不便を強いられているという認識の住民も複数名おり、対応に苦慮する状況が続いている。引き続き、交通指導員や、</p>				

		<p>必要に応じスクールサポーターとも連携しながら、本校の生徒指導で至らない部分にも細やかに対応していきたい。同時に、事態の改善に向け、教員と生徒会執行部のそれぞれに何ができるかを引き続き検討していきたい。</p> <p>③ 生徒が近隣住民との間の交通事故において加害的立場になった場合、または被害を受けるようなケースが発生した場合には、これまでの経験をもとに、迅速かつ確実な対応ができるようにしておく必要がある。本校自転車通学生には、自転車損害賠償保険等への加入を推奨してきたが、東京都の条例改正により、2020年4月から都内で自転車を利用する者に対し同種の保険への加入が義務づけられることとなった。学年PTA等において自転車通学者の保護者に条例改正に関して周知し、全員加入を早期に実現したい。</p> <p>④ 対応策を検討するためにも三者協議会を開催し、生徒・保護者・教員それぞれの意見や考えを交換し、状況の改善を図りたい。</p>	
5	子育て茶話会	子育てに悩む保護者と話やすい場をつくり、共に学びヒントを得るよう充実させた。	
6	学食	<p>・今年度の重要課題として位置づけ2020年度から4年ぶりに再開の運びとなった。</p> <p>・大学施設部・食堂業者・PTA役員会・本校事務室総務・管理職と連携して、実現を目指した。食堂4月再開に向けて、スケジュールや課題の共有、分担、遂行などをスムーズにおこなうため、2019年1月末から食堂委員会を立ち上げた（事務室総務・管理職・企画食堂担当の6名）。今後は、利用者からもフェアキャストによるアンケートを採るなどして、新しい学食の運営にいかし応えたい。お昼休みの10分延長案を教員会議で決定した。</p> <p>・購買については、学校に相応しい運営形態と生徒の学校生活を保障する観点、持続可能性（業者の採算確保）の折り合いを引き続きはかかっていきたい。</p>	